

エゼキエル書36-37章「失地回復の情熱」

1A 土地の回復 36

1B イスラエルの山々の息吹 1-15

1C 敵に対する妬み 1-7

2C 帰って来る人々 8-15

2B 汚れからの救い 16-32

1C 聖なる名 16-28

2C 産物 29-32

3B 廃墟の建て直し 33-38

2A 国民の回復 37

1B 谷間の枯れた骨 1-14

2B 国の結合 15-28

1C 一つの王国 15-23

2C 一人の王 24-28

本文

エゼキエル書 36 章を開いてください。私たちは、前回の学びからイスラエルの回復の預言を読んでいます。34 章において、主がご自分で民を牧するという約束をし、ご自分のしもべダビデ、すなわちダビデの子キリストを起こすと約束されました。そして 35 章から、イスラエルの山々を我が物のように占領して所有しようとした、エドムに対して神が罰を与えられる預言を読みました。そして 36 章です。主が、イスラエルの山々に預言を行わせ、土地を回復される約束をされます。ここ二章、そして次回の 38-39 章は、まさに前世紀から現在にかけて成就している驚くべき預言の箇所です。主の言葉の確かさを思います。それから、その背後にある主の思いは、イスラエルに対するだけでなく、霊的に私たちキリスト者にも向けられていることも見ていきたいと思います。

1A 土地の回復 36

1B イスラエルの山々の息吹 1-15

1C 敵に対する妬み 1-7

36:1 人の子よ。イスラエルの山々に預言して言え。イスラエルの山々よ。主のことばを聞け。
36:2 神である主はこう仰せられる。敵がおまえたちに向かって、『あはは、昔からの高き所がわれわれの所有となった。』と言っている。36:3 それゆえ、預言して言え。神である主はこう仰せられる。実にそのために、おまえたちは、回りの民に荒らされ、踏みつけられ、ほかの国々の所有にされたので、おまえたちは、民の語りぐさとなり、そしりとなった。36:4 それゆえ、イスラエルの山々よ、神である主のことばを聞け。神である主は、山や丘、谷川や谷、荒れ果てた廃墟、また、

回りのほかの国々にかすめ奪われ、あざけられて見捨てられた町々に、こう仰せられる。36:5 それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしは燃えるねたみをもって、ほかの国々、エドム全土に告げる。彼らは心の底から喜び、思い切りあざけって、わたしの国を自分たちの所有とし、牧場をかすめ奪ったのだ。36:6 それゆえ、イスラエルの地について預言し、山や丘、谷川や谷に向かって言え。神である主はこう仰せられる。見よ。おまえたちが諸国の民の侮辱を受けているので、わたしはねたみと憤りとをもって告げる。36:7 それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしは誓う。おまえたちを取り囲む諸国の民は、必ず自分たちの恥を負わなければならない。

主が、エドム人にイスラエルの山々を始め、谷川や谷、廃墟が奪われ、町々が見捨てられている姿をご覧になっています。主は、このことに対して「ねたみと憤り」を持っていると言われます。何度も何度も、「それゆえ」という言葉を使われ、非常に強く反応しておられるのです。それらはイスラエル人が所有している所でしたが、究極的には主ご自身の土地です。レビ記 25 章 23 節には、「地はわたしのものである」とあります。主がそしてご自分のものを、ご自分の民としたイスラエル人に与えられたのです。その主ご自身の所有の地をエドム人が我が物のように奪い取ったので、自分自身が侵されたとお感じになったのです。

主は、同じ原則でキリスト者が迫害されているのを、ご自分が迫害されているものとしてみなしておられました。パウロは、キリスト者らに迫害を加えていましたが、ダマスコに行く途上で、主イエスに出会い、主は、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。(使徒 9:5)」と言われました。主は、私たち自身をご自分のものとしておられます。私たちが踏みにじられるようなことをされたら、つまり迫害されたら、主はご自分が迫害されたもののようになされるのです。そこに、主の情熱があります。強い妬みと憤りで、踏みつけられたものを回復する強い意志を示されています。

2C 帰って来る人々 8-15

36:8 だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。36:9 わたしはおまえたちのところに行き、おまえたちのところに向かう。おまえたちは耕され、種が蒔かれる。36:10 わたしは、おまえたちの上に人をふやし、イスラエルの全家に人をふやす。町々には人が住みつき、廃墟は建て直される。36:11 わたしは、おまえたちの上に人と獣をふやす。彼らはふえ、多くの子を生む。わたしはおまえたちのところに、昔のように人を住まわせる。いや、以前よりも栄えさせる。このとき、おまえたちは、わたしが主であることを知ろう。

主が、イスラエルの人々をご自分の地に帰らせる約束をされます。その時に、枝を出す、実を結ばせる、そして土地を耕せる、種が蒔かれるのです。さらに、人々を増やして町々が建てられる。そして子をたくさん産むようになり、以前よりも栄えるようになるという回復です。これが、エルサレムが徹底的に破壊され、イスラエルが踏み荒らされている時に約束されていたのですから、本当

に信仰が必要です。

そして主はこれを実現させていただきます。しかし七十年後のバビロンからの帰還ではありません。神殿が再建され、城壁は建て直されましたが、以前のような栄光はなかったとエズラ記に書かれています。そして 12 節以降に、二度と子を失わせてはならない、外国の民に侮辱を聞こえさせないとありますが、これらはバビロン帰還後のイスラエルでは成就しませんでした。ペルシヤの後に、ギリシヤが来て踏み荒らされ、ローマの支配下に入りました。そして紀元 70 年に世界に離散します。しかし、紀元十九世紀の終わりから、世界に散っていたユダヤ人がこの地に集まり始めたのです。その小川のような帰還民の波は、前世紀の始め、鉄砲水のように帰還の大水の流れができ、人口は急増し、そして 1948 年にイスラエルとして国ができました。

当時、二十世紀の前は、イスラエルの地は荒地と湿地しかなかったという記録があります。帰還民たちは、開墾して、沼から水を取り出して開拓をしました。そして世界中からの援助によって基金を造り、イスラエルの地を緑にすべく植林の事業に取り組みました。町々が建てられます。テルアビブは砂丘の町として何もなかったのを、帰還したユダヤ人が建て上げ、ほぼ 40 万人を有する大都市になっています。ここの預言が全て成就したというわけではありませんが、確実にその方向に進んでいると言えるのです。

36:12 わたしは、わたしの民イスラエル人に、おまえたちの上を歩かせる。彼らはおまえを所有し、おまえは彼らの相続地となる。おまえはもう二度と彼らに子を失わせてはならない。36:13 神である主はこう仰せられる。彼らはおまえたちに、『おまえは人間を食らい、自分の国民の子どもを失わせている。』と言っている。36:14 それゆえ、おまえは二度と人間を食わず、二度とおまえの国民の子どもを失わせてはならない。…神である主の御告げ。…36:15 わたしは、二度と諸国の民の侮辱をおまえに聞こえさせない。おまえは国々の民のそしりを二度と受けてはならない。おまえの国民をもうつまずかせてはならない。…神である主の御告げ。…」

イスラエルに対して主は、子をもって祝福することを約束しておられました、アブラハムに対して、そして律法でも約束されています。しかし現実には苛酷なものでした。例えば、民数記にはシナイ山のふもとの宿営で数えた人数と、ヨルダン川の東に着いた時に数えたものでは、人口増加がほとんど見られません(1 章と 26 章)。約束の地に入ってから、数々の戦い、外国の敵からの虐げなど、飢饉など、いろいろな災いを受け、人口が増加することがありませんでした。だから、この土地は国民を食べていっているのではないか、という誹りを受けていたのです。誹りと言えば、今のエルサレムについて、マスコミでは、テロが多いから旅行に行くのは危険だというような悪い知らせがありますね。しかし、とても栄えて、安全もかなり確保している観光都市であります。

こうやって主は、敵からのそしりを、その地を回復することによって取り除かれます。私たちキリ

スト者にも、自分に躓きがあるでしょう。また、非難されるべきものがあるでしょう。しかし、主はそこから必ず贖われます。アブラハムまたモーセに約束された土地における祝福を、主は必ず取り戻すと約束されたように、みなさんの生活からも誹りと躓きを必ず取り除くと情熱を持っておられます。既に贖われました。そして今、聖霊によってその贖いを実体あるものにしてくださっています。そして、これは主が行なわれることです。そして、皆さんが主のものとしてされているからです。

2B 汚れからの救い 16-32

1C 聖なる名 16-28

36:16 次のような主のことが私にあった。36:17 「人の子よ。イスラエルの家が、自分の土地に住んでいたとき、彼らはその行ないとわざとによって、その地を汚した。その行ないは、わたしにとっては、さわりのある女のように汚れていた。36:18 それでわたしは、彼らとその国に流した血のために、また偶像でこれを汚したことのために、わたしの憤りを彼らに注いだ。36:19 わたしは彼らを諸国の民の間に散らし、彼らを国々に追い散らし、彼らの行ないとわざとに応じて彼らをさばいた。36:20 彼らは、その行く先の国々に行っても、わたしの聖なる名を汚した。人々は彼らについて、『この人々は主の民であるのに、主の国から出されたのだ。』と言ったのだ。36:21 わたしは、イスラエルの家とその行った諸国の民の間に汚したわたしの聖なる名を惜しんだ。

ここから主が、ご自分の民を汚れから清める約束を行われます。ご自分の土地を汚していたのは、他にもないイスラエルの家自身でした。ここに「さわりのある女のように汚れていた」とありますが、レビ記 15 章に女の出血によって、その期間汚れる不浄の期間という規定があります。つまり、血がたくさん流されるということです。殺人や、人を死に追い込むような不正な裁判、偶像による流血を神は最も忌み嫌われました。それで、この地から汚れを取り除くために、主は彼らを国々に追い散らされました。ところが、イスラエルの民は、世界に散らされても、なおもそこで主の名を汚すようなことを行ないました。そしてその国々の人々は、彼らが信じるとされる神を見下すようになったのです。再び、そしりです。

36:22 それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。わたしが事を行なうのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。36:23 わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚したわたしの偉大な名の聖なることを示す。わたしが彼らの目の前であなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが主であることを知ろう。.. 神である主の御告げ。..

主はこれから、彼らを約束の地に帰還できるようにして下さいます。そして、彼らを清める働きを行われます。それらのことが、彼らのためではなく、ご自身の聖なる名のためであるということです。ご自分が選ばれた民、ご自分の選ばれた土地がそしられています。しかし、汚れたことと関連

して語られるわけです。それで主はご自分の名誉が汚されていることを嫌がりました。ご自分の聖なる名のゆえに、彼らを連れ戻し、そして清められるのです。

これと主が私たちに接してくださるのは、同じ理由です。主がご自分の形として人を造られました。その人が汚れの中に入り、神の形が損なわれてしまいました。主はそのことをご存知で、キリストを遣わし、その血によって私たちの罪を赦し、それを御霊によって清め、神の形に戻すべく働かれました。これは、すべてご自身のためなのです。エペソ書 1 章 6 節にはこうあります。「それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。」神は恵みを注いでくださいます。それは私たちではなく、ご自分の恵みの栄光がほめたたえられるためなのです。

36:24 わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。36:25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。36:28 あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。

ここで主が彼らを回復するにあたって、二段階あることを教えておられます。初めに主は、彼らを全ての国々のから集められ、その地に連れ戻してくださいます。次に主は、既に集められた彼らに対して御霊を注いで、彼らを清めてくださり、神の命令に従うことができるようにしてくださるのです。神は、まだ新しく生まれさせる前から、イスラエルの民に恵みをもって働きかけてくださっています。これが、現代のイスラエルです。十九世紀の終わりから帰還したユダヤ人の多くが、宗教的ではなく、社会主義などを信じていた世俗的な人たちでした。神を信じていませんでした。イスラエルを建国するのに中心的に動いた人々も、今の政治家の多くも世俗派です。今のイスラエルのユダヤ人の八割が、神を信じていない世俗派と言われています。ましてや、イエス様を信じている人の割合は、0.1 割であると現地で聞きました。

しかし、まだイエス様を知らない彼らが、なぜ聖書に書かれているように動いているのか？ここが、神が私たちに伝えようとしていることです。「彼らではなく、わたしがしているのだ」ということを教えるためです。彼らの功績ではなく、神の功績であることを知らせるためです。神の恵みは、信仰を持つ前から、先行して働いているのです。生まれつきの盲人の話をお出しください。彼は、初めにその目をイエス様によって癒していただきました。しかし彼はその癒した方がだれだか分かりませんでした。初めは、イエスという男が、と言い、次に彼は預言者だ、と言いました。そして、

「生まれつきの盲人を癒すなど聞いたことがない。神から来た方だ。」と言いました。そしてユダヤ人たちから追い出された時、イエス様を見て、礼拝しました。この方を神の子、キリストだと知ったのです。まだイエス様が分からなかった、けれども、分からない時に既に主が恵みをもって働いてくださった。そして後になって、イエスが自分を贖ってくださる、自分の本来の姿、神の形へと回復してくださる、贖い主なのだを知るようになるのです。

イスラエルに対する預言に戻りますと、現代のイスラエルは第一段階を経ていますが、第二段階にまで至っていない、過渡的な、中間状態であることが分かります。神の働きは見えるけれども、自分たちがまだ気づいていない状態です。これから主が行なわれます。ゼカリヤ書には、キリストが再臨される時に彼らが気づき、救われる約束があります。「ゼカリヤ 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」今も、少ない信仰者でありながらも、イスラエルや世界で、ユダヤ人でイエス様を信じる人々が増えています。私たちはそのために、祈っていきたいですね。

そしてここに書かれている箇所は、新しい契約の中身であり、御霊によって新しく生まれることです。25 節で、水を主がふりかけ、偶像の汚れから清められるとありますが、これは、儀式的な水の注ぎのことではありません。律法の中に水の洗いの儀式がありますが、それは神の御霊による洗いを象徴していたのです。イエス様は、「水と御霊によらなければ、神の国にはいることができません。(ヨハネ 3:5)」と言われました。新しく神の霊によって生まれることによって、初めて、心が一新され、神との愛の関係に入り、それで神の言葉を聞いて、行なうことができるのです。私たちの問題は、神の命令を行なうにも心が石のように堅いことです。心が変わっていないので、行ないを正そうにも変えられないのです。しかし、主はその心を御霊によって変えられました。御霊を受けるのは、ただキリストを信じる信仰だけによるのです。そして 28 節には、主が彼らの神になり、彼らが主にとってご自分の民となるという、個人的、人格的交わりの中に入れられました。

2C 産物 29-32

36:29 わたしはあなたがたをすべての汚れから救い、穀物と呼び寄せてそれをふやし、ききんをあなたがたに送らない。36:30 わたしは木の実と畑の産物をふやす。それであなたがたは、諸国の民の間で二度とききんのためにそしりを受けることはない。36:31 あなたがたは、自分たちの悪い行ないと、良くなかったわざを思い出し、自分たちの不義と忌みきらうべきわざをいとうようになる。36:32 わたしが事を行なうのは、あなたがたのためではない。・・神である主の御告げ。・・イスラエルの家よ。あなたがたは知らなければならない。恥じよ。あなたがたの行ないによってはずかしめを受けよ。

御霊の新生を経たイスラエルの民が、その土地においてさらなる豊かさを経験します。集めら

れた時に既に作物が育っていたのですが、その後、大きな試練を受けます。大患難とも呼ばれます。そしてイエス様が天から来られて、世界の軍隊によって攻められる彼らを救われ、そして御霊を注いで彼らを覚醒させるのです。イエスこそがメシヤであると知り、受け入れ、悔い改めた後に、メシヤが王となる神の国において、この穀物の豊かさを知ります。

そしてその中で初めて、自分の過去にしていたことがいかに恥ずかしいものであったかを悟るのです。私たちも、御霊の新生によっていかに自分のしていたことが恥ずかしいかを悟りますね。パウロがこう言っています。「ローマ 6:20-22 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」

3B 廃墟の建て直し 33-38

36:33 神である主はこう仰せられる。わたしが、あなたがたをすべての不義からきよめる日に、わたしは町々を人が住めるようにし、廃墟を建て直す。36:34 この荒れ果てた地は、通り過ぎるすべての者に荒地とみなされていたが、耕されるようになる。36:35 このとき、人々はこう言おう。『荒れ果てていたこの国は、エデンの園のようになった。廃墟となり、荒れ果て、くつがえされていた町々も城壁が築かれ、人が住むようになった。』と。36:36 あなたがたの回りに残された諸国の民も、主であるわたしが、くつがえされた所を建て直し、荒れ果てていた所に木を植えたことを知るようになる。主であるわたしがこれを語り、これを行なう。

主が、廃墟をエデンの園のようになると人々が言うところまで建て直していただきます。自分たちがそう思っているのではなく、他の人々が見違えるように変わったということを認めることができるということです。これが主の御霊の働きです。再臨の後、文字通りこれを行なっていただきますが、霊的にも、主は、廃墟のようにになっている生活をエデンの園のように変えてくださる力を持っておられます。

36:37 神である主はこう仰せられる。わたしはイスラエルの家の願いを聞き入れて、次のことをしよう。わたしは、羊の群れのように人をふやそう。36:38 ちょうど、聖別された羊の群れのように、例祭のときのエルサレムの羊の群れのように、廃墟であった町々を人の群れで満たそう。このとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

34章において、主が牧者となり、羊を飼う約束をしておられましたが、ここでは人が増え、その羊が主に捧げられる数多くの羊のようにする、すなわち主への礼拝への生きた捧げ物となるのだ、ということを書いてあります。過越の祭りなど、とてつもない数の羊のいけにえが連れて来られました。そのとんでもない数の羊と同じように主が人々を増やしていただきます。

2A 国民の回復 37

そして 37 章に入ります。36 章においては、主は山々であるとか、土地に対してのご自分の情熱、それをご自分の約束したとおりに回復させる情熱を読みました。ここでは、国民そのものに対する神の情熱です。

1B 谷間の枯れた骨 1-14

37:1 主の御手が私の上であり、主の霊によって、私は連れ出され、谷間の真中に置かれた。そこには骨が満ちていた。37:2 主は私にその上をあらゆる方向に行き巡らせた。なんと、その谷間には非常に多くの骨があり、ひどく干からびていた。37:3 主は私に仰せられた。「人の子よ。これらの骨は生き返ることができようか。」私は答えた。「神、主よ。あなたをご存じます。」

エゼキエルが、以前と同じように主の霊によって動かされています。連れて行かれたところは、谷間の真ん中です。ゼカリヤ書 1 章にも同じように谷底の幻があります。山々に取り囲まれて、低い所にある谷底は、諸国によって虐げられ、卑しめられているイスラエルの姿を表しています。そして、かなり干からびた骨です。そして主は大胆に尋ねられますね、「これらの骨は生き返ることができようか。」もちろん、生き返りません！と答えたいところですが、エゼキエルは自分の意見をはさまない、へりくだった預言者でした。偽預言者は、自分の願っていること、思っていることをそのまま神の名でかたりますが、真実な預言者は、「神のみをご存知。神が全てのことを行われる。」と、僕の姿を貫きます。

37:4 主は私に仰せられた。「これらの骨に預言して言え。干からびた骨よ。主のことばを聞け。37:5 神である主はこれらの骨にこう仰せられる。見よ。わたしがおまえたちの中に息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る。37:6 わたしがおまえたちに筋をつけ、肉を生じさせ、皮膚でおおい、おまえたちの中に息を与え、おまえたちが生き返るとき、おまえたちはわたしが主であることを知ろう。」37:7 私は、命じられたように預言した。私が預言していると、音がした。なんと、大きなどろき。すると、骨と骨とが互いにつながった。37:8 私が見ていると、なんと、その上に筋が付き、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。しかし、その中に息はなかった。37:9 そのとき、主は仰せられた。「息に預言せよ。人の子よ。預言してその息に言え。神である主はこう仰せられる。息よ。四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。」37:10 私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中にはいった。そして彼らは生き返り、自分の足で立ち上がった。非常に多くの集団であった。

すごいですね、なんか夢に出て来そうな、生々しい幻です。ここにも、二段階の回復があります。初めは肉だけが取り戻されました。けれども、息がありません。それで息を吹きかけます。ここでの「息」は、御霊と同じヘブル語が使われ、風もそうですが、ですから御霊によって生きるものとなった状態を示しています。そして、「非常に多くの集団」とあるのは、軍事的な意味合いが含まれて

います。敵に打ち勝つ力強い集団という意味合いです。

37:11 主は私に仰せられた。「人の子よ。これらの骨はイスラエルの全家である。ああ、彼らは、『私たちの骨は干からび、望みは消えうせ、私たちは断ち切られる。』と言っている。37:12 それゆえ、預言して彼らに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。37:13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。37:14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。…主の御告げ。…」

午前礼拝では、復活について、墓から甦ることについて話しました。けれども、具体的にはイスラエルの国が甦ることをこの預言は指しています。土地にイスラエルの民が戻るというのと、国を建てるというのは、また別のことです。十九世紀の終わりに、ヨーロッパで初めてユダヤ人国家の構想を提示したのは、テオドール・ヘルツェルです。当時はあまりにもとんでもない話として、ユダヤ人の間でさえ強い反対がありました。オスマン・トルコがその地域を支配しており、ユダヤ人はヨーロッパでもロシアでも迫害されていた時期です。けれども、彼は運動を始めました。1897年9月3日の日記の中でユダヤ人国家の大本を築いたと言っています。そして、こう記しています。「こんなことを今、声高に言おうものなら、世間の物笑いになるだけだ。だがおそらく5年たてば、いや50年たてば必ずだれもが分かってくれるはずだ。」1897年の50年後、つまり1947年、その11月に国連がパレスチナをユダヤ人とアラブ人に分ける分割決議案を採択し、国際的にユダヤ人国家が認知されたのです。そして1948年5月14日に独立宣言をしました。

当時の状況をよく表すものとして、1911年に初版で発行されたブリタニカ百科事典には、ヘブル語についてこう書いてあるそうです。「古代ヘブライ語の正しい発音を取り戻す可能性は、中東にユダヤ帝国が再び建てられる可能性と同じように、程遠いものである。(Possibility we can again recover correct pronunciation of ancient Hebrew is as remote as the possibility that Jewish empire will be ever again be established in the Middle East.)」1911年ですから、もうすでにユダヤ人がパレスチナの郷土に帰還して、ベン・ヤフーダを中心としてヘブル語も日常会話に復活させるべく運動を起こしていた時です。それでも、百科事典でさえもがまるで信じられないという説明を行なっているのです。国ができることは、ひどく干からびた骨々に肉体がついて、息を吹き返すというのと同じぐらいの奇蹟なのです。

そしてやはり、36章と同じように、今のイスラエルはまだ息を持っていない肉体だけの国と言ってよいでしょう。これから御霊の降り注ぎが与えられることを信じ、祈るばかりです。

2B 国の結合 15-28

そして主が国を再建して下さる時に、もはや二つの国ではなく一つにしてくださいという約束が15節以降にあります。

1C 一つの王国 15-23

37:15 次のような主のことばが私にあった。37:16 「人の子よ。一本の杖を取り、その上に、『ユダと、それにつくイスラエル人のために。』と書きしるせ。もう一本の杖を取り、その上に、『エフライムの杖、ヨセフと、それにつくイスラエルの全家のために。』と書きしるせ。37:17 その両方をつなぎ、一本の杖とし、あなたの手の中でこれを一つとせよ。

エゼキエルは、再び実演による預言を命じられます。まるで PPAP のような実演です。一本の杖を取って、それはユダの国を表しています。それに、もう一本の杖、イスラエル、すなわち北イスラエルを表す杖をつなげます。そして手の中で一つの杖にします。「これはユダ、これはイスラエル、これで一つのイスラエル」という感じです。

37:18 あなたの民の者たちがあなたに向かって、『これはどういう意味か、私たちに説明してくれませんか。』と言うとき、37:19 彼らに言え。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、エフライムの手にあるヨセフの杖と、それにつくイスラエルの諸部族とを取り、それらをユダの杖に合わせて、一本の杖とし、わたしの手の中で一つとする。37:20 あなたが書きしるした杖を、彼らの見ている前であなたの手に取り、37:21 彼らに言え。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、イスラエル人を、その行っていた諸国の民の間から連れ出し、彼らを四方から集め、彼らの地に連れて行く。37:22 わたしが彼らを、その地、イスラエルの山々で、一つの国とするとき、ひとりの王が彼ら全体の王となる。彼らはもはや二つの国とはならず、もはや決して二つの王国に分かれない。37:23 彼らは二度と、その偶像や忌まわしいもの、またあらゆるそむきの罪によって身を汚さない。わたしは、彼らがかつて罪を犯したその滞在地から彼らを救い、彼らをきよめる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。

イスラエルの国が無くなったとき、それは分裂していた国々でした。けれども、主が彼らを帰還させて戻らせる時に造られるのは、一つの国に、統一された国になるということです。ダビデが神に選ばれた王であり、もちろん統一国家でありました。ソロモンが引き継ぎ、その後のレハブアムの時に、ヤロブアムによって北の十部族が彼を王として引き裂かれました。もともと、サムエル記を読みますと、ユダという部族と他の部族には僅かながらでも対立がありました。ユダはダビデの部族であり、それだけでもやっていけるぐらいの強さがありました。相続地として大きいですし、人もいました。そしてサウル王が死んだときも、ユダとサウルの息子が王となったイスラエルとの間で内戦が起こりました。しかし、ダビデは平和的手段によって、彼らの心を最終的には自分になびかせることに成功しました。こうやって国が一つとなったのです。そしてダビデの息子ソロモンが受け

継ぎましたが、彼が主から心が一つになっていかなかったので、それで北のイスラエル十部族のほう为重税で負担を感じていて、心が離れていってしまったのです。

そして北イスラエルは、ヤロブアムの中から偶像礼拝を行ないました。金の子牛を祭壇に置き、それでヤハウエ礼拝をしているとしました。それについて、紀元前 722 年アッシリヤによって滅ぼされ、イスラエルの十部族は捕え移されていったのです。ユダは、ヒゼキヤの宗教改革もありもつと長引きましたが、彼らも偶像礼拝に陥って 586 年に、バビロンに捕え移されます。けれども、主は彼らの汚れを取り除き、そしてダビデの時と同じように、一人の王によって統一された平和の統治を行われます。このように、偶像などの汚れと共に、分裂した二国の間にある争いや妬み、競争心も取り除かれます。「イザヤ 11:12-13 主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。エフライムのねたみは去り、ユダに敵する者は断ち切られる。エフライムはユダをねたまず、ユダもエフライムを敵としない。」

妬みや競争心、そして分裂は本当に痛々しいもの、悲しいものです。主が来られると、その敵意を取り去ってくださるのですが、初めに来られた時にもその働きを始めておられました。イエス様に触れる時に、人々は一つにされていきました。初めは、罪人とされていた人々です。取税人であるとか、律法を守る価値もないとみなされていた人々がイエス様に近づきました。それからサマリヤ人がいます。彼らはイスラエル人が北イスラエルで捕え移された時に、残っていた人々と他の地域から来た異邦人との混血でありました。宗教も、ユダヤ教を変えたものでした。ユダヤ人とサマリヤ人は敵対関係がありましたが、イエス様はサマリヤの女に近づかれましたし、良きサマリヤ人の話をされました。そして使徒の働きで、ピリポが初めてサマリヤ人に宣教します。そして最後に、異邦人です。私たちは、「あの人たちは自分と違う」として自分たちから引き離している人々が、キリストにあって近づいてきて、そして主によって一つとされるのです。ユダヤ人と異邦人の敵意について、パウロがキリストが私たちの平和であると言いました。「エペソ 2:14-16 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。」

2C 一人の王 24-28

37:24 わたしのしもべダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただひとりの牧者となる。彼らはわたしの定めに従って歩み、わたしのおきてを守り行なう。37:25 彼らは、わたしがわたしのしもべヤコブに与えた国、あなたがたの先祖が住んだ国に住むようになる。そこには彼らとその子らとその子孫たちとがとこしえに住み、わたしのしもべダビデが永遠に彼らの君主となる。

彼らを一つにする王、君主はダビデであります。これは、ダビデの子キリストを指し示している言葉です。そして、その統治する国は永久の国となります。人々は永久にそこに住み、もう二度と、引き離されることはありません。主がダビデにこのように約束されました。「2サムエル 7:12-13,16 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。・・・あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」これは、とても慰められる言葉です。なぜなら、ユダヤ人はつい数か月前に、ダビデの王座が取り除かれていたからです。けれども、主はダビデから、確かに永久の王、永久の国を立ててくださるということがあります。

私たちが受けている祝福は、永久に支えられています。永遠の罪の赦し、永遠の救い、永遠の命です。そして永遠の国に入れます。もはや、神から見捨てられることはなく、罪に定められることなく、救いが一時的なものではなく、永久に続きます。国も、途中で敵によって滅ぼされることなく、永遠に堅く経ちます。

37:26 わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。これは彼らとのとこしえの契約となる。わたしは彼らをかばい、彼らをふやし、わたしの聖所を彼らのうちに永遠に置く。37:27 わたしの住まいは彼らとともにあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。37:28 わたしの聖所が永遠に彼らのうちにあるとき、諸国の民は、わたしがイスラエルを聖別する主であることを知ろう。」

35 章に出て来た、平和の契約です。これが新しい契約のことであることを前回話しました。御霊によって新しく生まれ、罪は永久に取り除かれ、自分たちは神のものとなります。そして、土地は豊かにされ、かつてのような分裂や争いはなくなり、平和が支配します。そしてもう一つ、「わたしの聖所を彼らのうちに永遠に置く」と主は約束されます。エルサレムにおいて、主がソロモンによって建てられた神殿にお住まいになりました。けれども、それは彼らの不従順により、バビロンによって破壊されました。けれども、今度、主ご自身が建ててくださる聖所は永久に滅ぶことはありません。その鮮やかな幻が、エゼキエル書 40 章以降にあります。

その時に詳しく学びたいですが、ここでは、主が永久に彼らの中に住んでくださるということです。モーセの幕屋とイスラエルの宿営のことを思い出してください。民数記にありましたが、部族毎に東西南北に宿営して、幕屋を真ん中にして彼らは共同生活をしていました。主を礼拝することにおいて、彼らは一つとされていました。私たちも同じです。「私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。(エペソ 2:18)」初めにユダヤ人の信仰に対して、私たち異邦人がキリストの血によって一つにしてくださいました。そして私たちの間にも、キリストの血と御霊によって一つにしてくださいました。そこに主は永遠に住まわれます。